



▼ 年頭挨拶

新年を迎えはや1月が過ぎました。昨年は当協会にとっては大変不幸な年でもありました。

偉大な功績（航跡）を残した松崎顧問と須田会長の御両名の他界は本当に残念でなりません。

残された私たち協会会員は南北海道外洋帆走協会の発展のためにお二方の志をしっかりと受け止め、活動を進めてまいりたいと思いますし、後世にもしっかりと受け継いで行きたいと思えます。

河村新会長が就任され1年を迎えようとしていますがこれからも会長と協同一致体制で事に望んでいきたいと思っております。今年も楽しい会になるよう各委員長や理事の意見をいただきながら協会の運営に邁進したいと思えます。皆様にとって幸せな1年となります様御祈念申し上げます。

南北海道外洋帆走協会 理事長 石川 彰

▼ 連日の寒波

2012年皆様にとって良い年になるよう、本年もよろしくお願い致します。

暖かい正月を迎えた途端に連日寒波で毎日雪かきと寒い日をお過ごしのことと存じます。

今年の寒波は全国に雪をもたらし、除雪による死亡事故も連日のように報道されており、皆さんも愛艇の除雪をするときには、一人で行わずに隣近所声掛けで行いましょう。

さいわい屋根からの落雪による事故は無いでしょうが、足を滑らせて落水すると着ぶくれしているのので即あの世行きです。くれぐれもおフジーンズの落水には気をつけてください。（合掌）

私事ですが昨年暮れに冬仕舞でセールを解装したままでは良かったのですが、まだ雪は降るまいと思いついニングをせずにいたところ突然の降雪に逢い、結局今冬は豊んだままのオーニングの周りをせつせと雪かきしております。（ー；）

*** 函館から沖繩へ、沖繩から函館へ ***

VOL. 2

10月1日（金）2日（土） 晴れ

下田→志摩ヨットハーバー

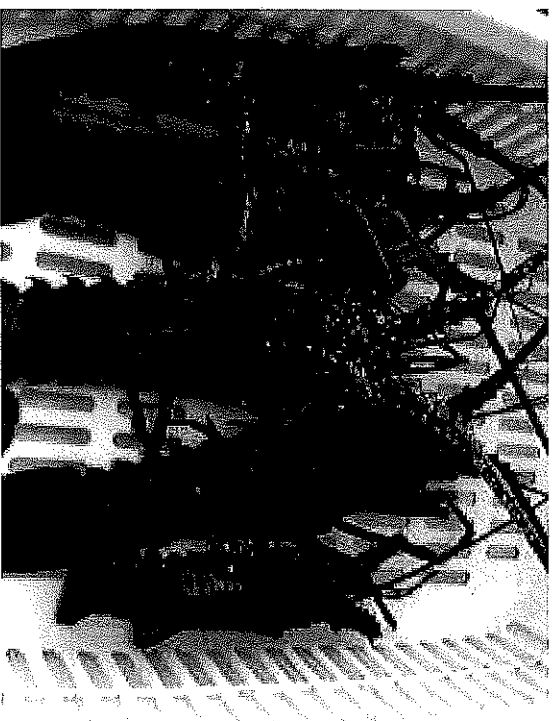
07：00出港。東の風7～8メートル、時折10メートル。波大きくローリングがひどい。駿河湾沖から北に富士山が遠望できる。さすが日本一の山だ。ほかの山々に比べ抜きんでて高く見える。滝野氏に電話で実況中継する。滝野氏は羨ましそうだ。御前崎沖通過後、夜に入る。相変わらず波も風も強烈だが西へ向かうには絶好の海象だ。ただこのままでは目的地に到着するには早すぎる。メインを3ポソリーフ。ジブも小さくフターリングする。周りには東や西に向かう本船が7～10隻ほど見えるが、こちらがヨットであるかわかっているようで、適当な距離を置いて航行してくれる。未明、大王崎を確認。チャートと照らし合わせながら布施田水道を通り志摩ヨットハーバーに到着。布施田水道、ハーバーへのアプローチと緊張の連続であった

が、着いてしまえば緑に囲まれたすばらしいロケーションのヨットハーブである。最初の3日間は1日1,000円。こんなヨットハーブが増えてほしいと思う。＜ドンタク＞は無事重須に着いたとの連絡。祝福のメールを送る。

10月3日（土）曇り 志摩ヨットハーバー

ここでしばらく休養することにする。航海の様子は滝野氏と井口氏にメールでおくっているが、井口氏は自分のブログに私達からのメールと写真を載せてくれているのだ。私はコンピュータについてはからつきし苦手なので彼の心遣いが本当にありがたく感じる。

休養日を使い、お伊勢参り、函館で知り合った＜キングビー＞との交流。こんなことも沿岸クルージングの楽しさだと思う。



10月6日（水）晴れ 志摩ヨットハーバー→丸木浦

4日間滞在した志摩ヨットハーバーをあとに丸木浦に向け出港。14：30入港。沖からは港の入口はなかなか分かりにくい。山と山に挟まれた「くの字」に曲がりくねった細い水路の奥が丸木浦の港である。丸木水軍の根拠地だったということを想像するにたやすい湾だ。ヨットハーバーにしたなら最高だと思う。町並みはまるで迷路。

10月7日（木）晴れ 丸木浦→那智勝浦

早朝、定置網起こしに誘われ、微力ながらお手伝いをする。生まれて初めての体験だ。お土産にサバ4匹、イサキ1匹をいただき出港する。北東の風、風力1～2。艇速伸びず機走。勝浦の町並みは沖からは見えない。港口の両岸には小さな島が連なっており初めての入港としては入りにくい港だ。給油船の乗組員に教えられ港右手奥に係留。このように寄港するたびその土地の人たちにお世話になりながら私達の航海は進められているのだ。ありがたいことだと思う。すぐそばに温泉もガソリンスタンドもスーパーもある。最高。

10月8日（金）曇り後雨 那智勝浦

強風波浪注意報が出ている。当然「テケミ」である。しばらく出港できそうもないが温泉があるので退屈はしない。「つらら」も「あられ」も船暮らしがたいぶ身についてきたようで、航海中は箱の中、停泊中は時々ヨットピットに出て外をながめている。

10月11日 (月) 晴れ

那智勝浦→周参見 (すさみ)

連日の大雨もやっと上がった。6:30出港だ。串本沖まで連潮、6.5ノットから7ノットもでる。ルンルンで走っていたところ一気に逆潮に変わり4ノットに落ちる。荒れることで有名な潮岬も今日は静穏だ。普段ならカッパが必要だという。14:00周参見入港。

10月12日 (火) 晴れ 周参見→日和佐

いよいよ今日は四国に上陸できそうだ。実は私は大阪より西には来たことがないのだ。勿論四国も初めて。由美子はずいぶん昔、「ヤマハヤツチレーヌ」に出るため鳥羽までは来たことがあるが土地勘は全くない。二人ともワクワクした気分が出港する。機帆走、エンジン2000回転で6.5~7ノットだ。知らず知らず回転数を上げてしまう。日本標準時の子午線東経135°を通過。GPSでその瞬間を確認する。昨日まで不調だった無線機も今日は快調。シーガルネットもオケラネットもガンガン入ってくる。13:00入港。NHKのドラマ「ウエルカメ」の町だ。港近くの立派な温泉はお湯路さん相手の施設らしい。勿論私達も入ることができるが、「薬王子」(やこうじ)というお寺が経営しているという。さすが四国だなと思う。係留場所のそばで会った方に「われわれにとつてあなたは第1四国人です。」と伝えたところ、それは光栄だと喜び「すだち焼酎」と「すだち」をどっさり持ってきてくれた。四国の第一印象は最高。

10月13日 (水) 曇り時々晴れ—時雨

日和佐→室戸岬

06:00出港。北の風、風力1~2。3ポントしたメイソを上げ機走。波は大きいが快走。12:00入港。13:00係留完了。コンクリートで固められた要塞のような港だ。台風を防ぐためにはこれだけの施設が必要だろうが、少々不気味な港である。「0071」の映画に出てくる悪者の巢窟の感じもしないでもない。こんなこと言ったら怒られるかな。

10月14日 (木) 曇り時々晴れ—時雨

室戸岬→高知

06:00出港。はじめ北よりの風2、後北西。波小さく走りやすいがやや弱い逆潮。時折悪名高い「シイラづけ」を見る。恐ろしい、こんなのに衝突したら大変だ。「夜、土佐湾を航行するな。」と多くのヨットマンに言われたが単なる脅しでないことがわかった。

12:00高知クラブのゲストバスに到着。川野氏、松岡氏らが出迎えてくれる。手作りのヨット泊地と見えるが、電気、水道も使える。クラブハウスは我が南北海道外洋帆走協会と似ているが、りっぱなシャワーがあるのにはびっくり。南国らしくバルコニーにはテューブル、椅子、それにネコも2~3匹。夜、川野氏、松岡夫妻らと<ライウエイ>で飲み会。噂には聞いていたが四国の女性はよく飲む。飲み会のノリも外航とよく似ている。飲むほどに酔うほどに高知弁が出てくるのが楽しい。



10月15日 (金) 晴れ 高知

松岡氏の車を借り、ヨインラソンドリー、スーパーを回り、その足で桂浜、坂本竜馬の銅像見物。竜馬とツーショットで記念撮影。

10月16日 (土) 曇り時々晴れ 高知→佐賀

06:00出港。桂浜を右に見てセーリング開始。北西5~6メートル、クローズリーチで快走。久しぶりにウインドヴェンを使う。13:30佐賀入港。佐賀といつても佐賀県ではないんだよ。高知県にある佐賀港。あぁややこしい。港内の養殖いかだの舫いロープに危うくひっかかりそうになる。

10月17日 (日) 曇り後晴れ 佐賀→土佐清水

<ライウエイ>の前後に養殖いかだの舫いロープがあるののでササスリルがあつたが無事離岸に成功。北西の風5~8メートル。2ポントのメイソとジェノア。足摺岬を交わしたところで逆潮になる。エンジンをつかって3ノットがせいはいっぱいだ。12:30港一番奥に着岸。その直後地元氏神様のお祭りの漁船パレードが始まった。十数隻の漁船が港を3周する。先頭の船には大きな御神輿が載せられている。いい時に来たものと特等席 (勿論ライウエイのコックピット) で見物だ。

10月18日 (月) 19日 (火) 晴れ後曇り 土佐清水

→宮崎

最近、ギヤオイルが乳化することが早い。新しいオイルを入れても50時間くらいで白っぽくなってしまふ。おそろくSドライブのシヤフトから海水が入るのだから。今日もギヤオイルを交換する。13:00出港。一気に九州へ渡る。潮のせい機帆走で4ノットだ。夜中過ぎから波、風とも強まってきた。豊後水道中央あたりから風10メートル、波2~3メートル。ローリングがひどい。「つらら」と「あられ」と由美子は自分自分のバスで寝ている。19日10:00宮崎入港。到着祝いにビールを一杯。なにはともあれ着くたびに私は到着祝いをしていく。着いてからわかったこと。タベから強風波浪注意報が発令中。